

平成 3 0 年度 学校評価（自己評価／年度末評価）

本年度の重点目標	○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充			
項目担当	重点目標	具体的方策	中間評価	評価結果と課題
総務	・職員の分かりやすい駐車方法と駐車場の整備 ・平成 31 年度の行事における保護者の駐車の方法の検討	・年度始めに駐車方法のプリントを職員に配付し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 ・駐車場の白線引きと通用門付近の看板の整備をする。 ・行事ごとに駐車方法の案を出して検討していく。	・年度始めの職員会議で、全職員に向けてプリントを見ながら説明を行った。 ・駐車の方法が間違っていたら、指摘し協力をお願いした。 ・通用門付近の看板、正門の駐車方法を表示する看板を現在製作中。 ・来年度の行事における保護者の駐車方法について、校務部内で検討し、管理職に確認してもらい、再度検討中。	・年度当初に全職員に駐車方法や決まりごとについて説明したことで、全般的に意識して駐車してもらえた。一部そうでない場合もあったので、次年度は改善できるようにしたい。 ・駐車方法表示の看板が老朽化して見にくくなっていたので、新しく作り直した。また、正規駐車場内が一方通行であるということが分かるように表示した。白線の引き直しができなかったため、次年度対応したい。 ・来年度は、大きな変更があるため、年度始めに行事等のときの保護者の駐車方法・場所について全職員へ周知する。保護者にはP T A総会やプリント配布で周知していく。
教務	・新教育課程の検討 ・学習指導内容の充実	・平成 32 年度からの実施できるよう、小学部・中学部・高等部のつながりある教育課程を目指して検討を進める。高等部での実践を参考に、各部の通常の学級での自立活動の時間の指導について、また、それに伴う他の教科等の時間数の検討、さらに、児童生徒の実態に即し、3 部間の傾斜を考えた重複障害学級の教育課程について検討する。 ・平成 32 年度から小学部における新学習指導要領の全面実施の備え、小学部・中学部・高等部の系統性を考えた指導内容を盛り込んで各教科・領域の年間指導計画を検討する。	・小学部・中学部・高等部とつながりある教育課程を目指して各部で検討を進めている。小学部・中学部においては、平成 32 年度通常の学級における自立活動の時間の指導の実施に向けて、教育課程編成表 1 表及び 2 表を作成中である。 ・重複障害学級の教育課程が、より児童生徒の教育的ニーズに応えられるよう、各部で教育課程の課題や改善点の洗い出しを行っている。 ・教科・領域会において、新学習指導要領の各教科の目標及び内容の確認を行っている。小学部・中学部・高等部の系統性や連続性を考慮し、各教科の学習指導内容表を作成中である。今年度中に学習指導内容表を完成させ、それに基づいて新学習指導要領に対応した年間指導計画のモデル案を来年度に作成できるようにする。	・小学部・中学部では、教育課程編成表 1 表及び 2 表を新しく作成し、部会等で職員に周知できた。来年度、通常の学級で自立活動の時間における指導を試行する。指導体制や指導方法、指導内容等の効果的な指導のあり方を検討していく。高等部については、A 類型の生徒を抽出して自立活動の時間の指導についての検討を始めた。 ・各部の重複障害学級の教育課程についての問題点や改善点について部会等で話題提供をした。来年度は具体的に各部の重複障害学級の教育課程について検討する。 ・教科領域会において、新学習指導要領に応じた学習指導内容表を作成した。来年度は、学習指導内容表に加筆、訂正を加えて学習指導内容表の充実を図るとともに、それを参考にして年間指導計画モデル案の作成につなげていく。
生徒指導	・安全な通学環境の整備 ・基本的生活習慣の定着 ・防災体制の充実 ・いじめの防止	・S B6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・タイヤの調整） ・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・挨拶の習慣、身だしなみの意識、持ち物を管理する力を高め、好ましい生活習慣の定着を図る。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。 ・職員会議でいじめ防止基本方針の共通理解を図る。学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象にいじめに関連したアンケートを実施する。	・保護者の要望、地域からの連絡に対し、コースやバス停の位置の調整をして、安全対策、適正運行を図った。次年度に向け、より安全かつ円滑に運行できるコースの見直しを進めている。 ・通学時、自転車の交通事故が2件発生した。昨年度より事故件数が減っている。7月には一宮署に依頼し、交通安全教室を自転車通学者に対して実施。 ・繰り返しの訓練により、職員の防災対応意識が高まっている。 ・熱中症を考慮して、部活動や下校訓練を実施。今後も適宜対応が必要である。 ・防災物品や備蓄食糧の計画的な購入を進めている。 ・他校との情報を聞き、避難所開設の対応も検討。 ・年度当初の職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、1学期末にいじめ不登校対策委員会、いじめに関連したアンケートを実施した。現在、いじめに関する問題行動等はみられない。	・保護者の要望、地域からの連絡に対し、迅速に対応し、コースやバス停の位置の調整等をして、安全対策、適正運行を図った。 ・通学時、自転車の交通事故が4件発生した。7月には一宮署に交通安全教室を、自転車通学者に対して実施した。3学期には、事故者を抽出し、交通安全指導を実施した。次年度も、一宮署の交通安全教室を計画し、事故防止に努める。 ・週番、児童会、生徒会を中心にあいさつ運動を進めた。のぼりやたすき等を活用し、あいさつ運動を行った。次年度も継続して行いたい。人権週間に合わせて、人権に関する放送を行ったり、各部から「いじめ防止」に関する講話を行ったりした。 ・南海トラフ地震に関する情報（臨時）やJアラートミサイル発射情報発表時の対応について、今後も政府の動向（方針）に注意し、その都度対応を検討する。 ・県から継続的に備蓄食糧を頂けるようになったため、児童生徒と職員の備蓄食料が3日分確保できるようになった。品質の管理等については、随時確認を行う。 ・年度当初の職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、各学期ごとににいじめ不登校対策委員会を行い、年2回いじめに関連したアンケートを実施した。1年間、重大な問題はなかった。
進路指導	・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実	・進路講話会等を開催し、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・他の分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 ・職場開拓を行い、雇用予定のある企業を積極的に探す。	・保護者向けの進路講話会として、卒業生の進路先（福祉施設）から外部講師を招いて2回実施した。 ・現職研修では外部（企業）講師を招き、職員の意識向上を図った。 ・地域支援部と連携し、相談機関を交えて個別支援会議を実施し、個に応じた進路指導を実施している。 ・今後もハローワークや他校進路担当者と情報交換を行いながら職場訪問	・職員や保護者に事業所情報や資料の紹介を積極的に行い、担任、保護者間でも各事業所の情報共有の機会を増やしたことで、保護者の進路指導に対する意識向上につながられた。 ・児童養護施設から通学する生徒を中心に、地域支援部と連携しながら早期から個別支援会議を実施し、卒業後の進路に関して共通理解を図ってきたことで、スムーズな進路決定や新生活準備ができた。 ・企業訪問を積極的に行い、雇用予定のある企業の開拓や、体験実習の実施につながられた。

			や会社見学に出向き、進路先及び後期実習先として開拓を進める。	・今後も、職員・保護者への進路情報を随時発信して進路指導の充実を図るとともに、卒業後、本人・保護者と事業所間での手続きの不備を防ぐため、必要書類や手帳の更新時期等について、担当職員や関係諸機関との情報共有を確実にしていきたい。
保 健 体 育	・児童生徒の健康教育の推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備	・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心的な役割を果たす。 ・訓練等を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 ・教育活動全体を通した食育指導を実践し、好ましい食習慣を形成する。 ・児童生徒の健康観察を実施するとともに保護者との連携を図りながら安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・個別の健康観察や校内一斉換気を実施することで職員と保護者ともに意識を高められるようにする。	・児童生徒の健康観察や健康情報を共有することで保健室経営をしっかりと行うことができていると思うが、これからもしっかりとした情報共有を実施したい。 ・生徒指導部と協力し、消火栓等活用訓練を実施することで職員が危機感をもって訓練に取り組めるようになってきたが、細かな確認も実施しより良い訓練にしたいと思う。 ・栄養教諭や生徒給食委員会から積極的に情報発信することで、少しずつ食育に関心が高まりつつあるので、引き続き努力していきたい。 ・環境整備を通じて、安全・安心な学校づくりを心掛け、日常の職員清掃をより効果のある物にしていきたい。 ・個々の健康観察や肥満指導を通じて担保健室が担任・家庭と少しずつ連携を図れるようになってきている。	・健康観察や健康情報を担任から聞き取りや、部主事の校内巡視情報を共有することにより、児童生徒健康管理並びに保健室運営に役立てることができた。 ・生徒指導部と事前の打合せを密にすることで、消火栓等活用訓練を有益な研修にできたと思う。 ・本年度は栄養教諭が生徒給食委員会の運営を担当したことにより、生徒とのコミュニケーションが図れた。しかし、月 1 回の活動であるため、より計画的にかつ担任と連携を強めることでより充実した活動へとつなげたい。 ・日常の環境整備については、教室周辺の環境整備はできているが、各部玄関や校舎周辺などの除草作業などをより計画的かつ、季節に応じた対応をできるようにしたい。 ・安全衛生委員会などを通じて職員間のヒヤリ・ハット情報を共有することで、環境整備に役立てることができた。 ・肥満指導については、毎日の体重測定を通じて担任、家庭に情報を発信しながら根気よく継続していきたい。
研 修	・職員の専門性の向上	・現職研修の充実を図る。	・保健に関する研修では、養護教諭と連携し、日本赤十字社から講師を招いた。身近なものを使用した応急処置について実技を多く交えた内容で充実した研修を行うことができた。 ・掲示や朝の打合せで知らせることで、研究授業が行われることへの周知をすることができた。 ・教材教具展においては例年の出展に加えて、各教科領域より教具の紹介コーナーを設けた。各教科で管理している教具を広く知ってもらう機会となった。 ・今後の現職研修も、職員からの意見を参考にしながら、できるだけ主体的に参加できるものを考えていく。	・昨年度末のアンケート結果を基に聴覚（人工内耳）に関するものや、摂食指導に関するもの等を行った。実際に日々の指導にすぐ結び付く内容であるものは特に意欲的に臨めた研修となった。また、今年度、時間的な余裕がほしかったという反省が挙がった研修があるので、来年度は夏季休業中を利用して計画したい。 ・介護等体験の体験時間を延長した。体験に関しては問題なく実施できたが、研修部内の体制に課題が残った。来年度、改善できる点については部内で対応していきたい。 ・2年間の研究で、職員間で共通認識をもちながら、各学部に合った支援方法、手だてを得ることができた。児童生徒の目指す姿に向けた指導に、それらを活用していけると良い。
視 聴 覚	・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室の円滑な運営を図り、児童生徒の利用を促す。	・視聴覚準備室や、視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・視聴覚機器の更新を進める。 ・閲覧スペースの環境整備を行う。 ・児童生徒の指導に役立つ専門的な図書を充実させる。	・視聴覚準備室の使用頻度の少ない物を一部廃棄し、視聴用 DVD の棚を整理した。今後も利用しやすくなるように整理を進めていきたい。 ・普通教室用の CD ラジカセの更新を進めた。不具合が生じた物は交換していく。 ・図書用のパソコンのバーコードリーダーを整備して貸出、返却をしやすくした。 ・破損の激しい本や情報の古い本を廃棄し、新しい図書を入れることができた。 ・読書週間において新刊コーナー、おすすめ本コーナーを作り、盛り上げていきたい。	・視聴覚準備室の整理をして使用頻度が低い物品の廃棄を進め、新たに大型テレビを一台配備した。引き続き、機器の更新と廃棄を進めたい。 ・図書室の照度を測定した。本の閲覧には 300～500 ルクスの光量が必要だが、ほとんどの場所が 300 ルクス以下である。図書室が少しでも明るくなるよう改善したい。 ・図書の廃棄を進め、季節の本などのイベントコーナーや道徳に関する本のコーナーなどを新設して利用しやすくした。 ・古い情報の図書を廃棄して、新しいものの購入を進め、新しい情報を提供できるようにする。 ・授業に活用できる雑誌が多くあるのでこれらの宣伝を進めていきたい。
情 報	・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に対する先導と分掌間の連携	・日常的なサポートとともに、夏季休業中に情報機器活用講座を開催する。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進め、校内に還元できるよう 研修会を行う。	・夏季休業中に、校内の情報機器活用講座を開催した。タブレット端末の利用や動画編集など、授業への活用に成果があった。資料提供や日常的なサポートを引き続き行っていく。 ・情報モラルアンケートを中学部と高等部の保護者及び高等部生徒に実施。担任と連携して、アンケート結果を個別懇談に活用できた。今後も担任や学年等と連携して、情報モラルに関する働きかけを進めていく。 ・生徒指導部と連携して、携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室を計画している。 ・タブレット端末の利用について、自立活動部等と連携して、利用事例を集約したり紹介したりして、更に利用促進を図りたい。	・日常的なサポートとともに、夏季休業中に校内情報機器活用講座を実施した。教員のスキルアップが図れ、授業に活用できた。定期的な情報管理の自己点検によって、セキュリティ意識を高めることができた。 ・情報モラルアンケートや生徒向けスマホ安全教室を実施し、実態把握や注意喚起を行い、意識の向上を図れた。次年度は、トラブルを未然に防ぐための働き掛けを、年度始めから積極的に行いたい。 ・タブレット端末の利用については、情報部としての研修会の他に、機器の整備や事前の相談など、自立活動部の研修会をサポートできた。無線 LAN のトラブルへの対応を総合教育センターと連携して随時行ったが、次年度は、定期的に点検を行い、より迅速に対応ができるようにしていきたい。 ・次年度に予定されているパソコンの機器更新について、事前の準備をしっかり行い、円滑に進められるようにしていく。
地 域	・相談活動や地域支援活動の充実	・校内職員向けの研修等、特別支援教育に関する情報の発信に努め、自校児童生徒への支援の充実を図る。	・夏季休業中に本校職員対象の校内研修を実施した。児童生徒支援に必要な内容を取り上げたことで、3 日間で多くの参加があった。また、地域	・児童生徒の心理や発達の状態を理解し、寄り添う視点や効果的な支援方法について研修を行った。今後も職員の関心がある内容を取り上げて研修を行いたい。

支 援		・相談支援活動を担当する職員の専門性向上を図る。	支援部日より7月号では特別支援教育に関する本の紹介も行った。 ・今年度より高等部生徒教育相談を試行的に実施している。生徒のサインを捉えて早期に対応できるよう、実施方法等の体制を整えているところである。 ・7～8月にたんぽぽ夏季相談及び出張相談を実施した。地域支援部職員が相談係や記録係を分担して担当し、保護者や教員等からの相談を通して相談支援の経験を積むことができた。	・教育相談を通して生徒が抱える課題を把握し、学年職員や進路指導部、生徒指導部等と連携を取りながら早期支援・対応ができるよう努めた。教育相談がうまく機能するためには、様々な立場の教員が一体となって対応することができる校内体制の整備を進めていきたい。 ・夏季相談を行う前に相談に関する研修を行い、実際の相談に臨んだ。相談場面で適切に情報提供ができるよう、相談支援に必要な知識・実践等を蓄積し合うことで、相談担当者の専門性を高めていきたい。
自 立 活 動	・学習指導支援の充実 ・教材教具等の周知と有効活用	・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高める。 ・個別の指導計画の目標や手だて、指導内容についてのモデル案を作成する。 ・自立活動の教材・教具を研究、作成し、授業等で有効活用できるように整理する。	・自立活動に関する勉強会「じかつ☆ラボ」を計画、実施した。1学期と夏期休業中に計5回開催し、各回30名ほどの職員が参加した。感覚統合、動作法、ICTについて等知識を深めることができた。また、その内容を「じかつだより」に掲載し、全職員に配付することで情報を共有した。 ・自立活動掲示板「じかつコーナー」を設置し、勉強会の案内と報告、教材の紹介等を行った。 ・自立活動に関する教材を新たに20点ほど作成し、すべて貸し出しできるように教材室を整理した。また、教材紹介をデータ化し、活用方法を一宮東Webから閲覧できるようにした。 ・今後、自立活動の時間を設定するにあたって、「流れ図」を活用した目標設定の仕方や具体的な指導内容について提案していく。	・自立活動勉強会「じかつ☆ラボ」を計6回実施した。実施後のアンケートでは、概ね満足の声が聞かれ、実際に授業や学校生活の場面で生かすことができたという意見も得られた。来年度以降も、専門的な知識をもつ職員を中心に進めていく。内容については、アンケート調査等を行い、教職員のニーズに応えられるようにしていきたい。 ・来年度より、小・中学部での自立活動における時間の指導が試行される。それに伴い、自立活動の具体的な内容をまとめた「自立活動内容表」を作成している。今年度中に完成させ、自立活動の指導に役立てられるようにしたい。また、「流れ図」を用いた実態把握から指導内容設定までのプロセスを、共通理解できるような研修を来年度行うことを予定している。 ・教材・教具の貸し出しは、多くの職員に利用してもらうことができた。来年度以降も、新しい教材・教具の購入、作成を行っていきたい。
小 学 部	・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成	・児童の発達段階を踏まえるとともに、長期的な視点に立って児童の成長を考える中で、日常生活で身に付けたい基本的な力の共通理解を図り、個々の実態に応じた支援の充実を図る。 ・安全な生活環境の整備や個々の実態に応じた支援を充実させることで、けがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。	・全校研究での取組を生かし、視覚支援に工夫をすることでトイレの使い方や身だしなみを整えることを意識できる児童が増えてきた。今後、定着していくための手だての工夫とより多くの児童に成果が出るような系統的な指導方法を検討していく。また、挨拶等、他者との関わりに関する生活習慣の育成や、個々の目標を意識して自立活動の視点を踏まえた支援も進めていく。 ・窓ガラスへの飛散防止フィルムの貼付け、割れない姿見の設置等、安全を意識した生活環境整備を行なった。また、部会や学年会等で児童の体や心の健康状態への留意事項を共有することで、児童の安全な生活の支援を行った。	・児童の発達段階を踏まえた支援の継続、視覚支援の環境を整えることで、個々に応じた日常生活の基本的な力を成長させていくことができた。今後、それぞれの児童の成長の情報を共有してどの児童にも有効な手だてをまとめていけるとよい。自立活動について、来年度の「時間における指導」の試行の中で個々の実態に合わせた指導方法、指導体制の確立を目指す。また、今までの運動遊びの時間を自立活動の時間に充てていくので、運動量の確保についても考慮する必要がある。 ・安全な生活環境を意識して、指導を進めることができた。2学期から始まった小学部棟のエアコンの工事においても、施工後の教室等で、危険が想定される箇所については、すぐに連絡が入ることで安全対応を図ることができた。また、日々の健康観察をしっかりと行うことで児童の健康状態の変化に早く気づき早目の対応をすることで病気の重度化、拡散の防止ができた。精神的に不安定な場合も同様に、本人、周りの児童にとって安全な環境を用意することで、自傷、他害を減らし、その結果、けがによる病院受診も無くすことができた。来年度は、新1年生が30人入学することから、指導計画、指導体制を例年どおりでなく、30人を想定して進めていく。
中 学 部	・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と感じられる授業を創り、笑顔あふれる中学部をめざす。 ・基本的生活習慣を育成し、社会生活を営む上で基礎的な能力を高める。	・ユニバーサルデザインの視点から補助具を開発したり環境を整えたりして、生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 ・食事、睡眠、排せつ、挨拶、衣服の着脱、身だしなみ、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ちなど、基本的生活習慣の育成を家庭と連携を密に図り、学校生活全般を通して指導する。	・様々な授業場面においてICT機器や写真・イラストを積極的に用い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。更に生徒自身が主体的に授業に参加できるように工夫していく。 ・授業場面では、習熟度を考慮した小グループ編成や活動内容の精選などの工夫を行い、学習の定着及び活動量の増大を図っていくことが課題である。 ・特に日常生活の指導及び1限後半の生活単元学習の時間を有効に使い、個々の課題に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、集団を意識した学校生活を送る生徒の姿が、年度当初よりも多くなっている。 ・中学部集会で「ありがとうチャンピオン」として、みんなのために積極的に活動した生徒を表彰したり、近隣の公園に出向き校外での販売実習を展開したりするなど、生徒が他者に認められる活動を取り入れることで、自己有用感及び自己肯定感が高まり、自信をもって笑顔で学校生活を送る姿が目立つようになっている。	・授業場面においてITC機器や写真・イラスト等視覚支援を積極的に取り入れ、生徒にとって分かりやすい授業づくり」を展開し、意欲的に授業参加する生徒の姿が多く見られた。 ・各授業場面で個々の目標設定を意識して、繰り返しの学習や体験型の授業を多く取り入れることで学習の定着が図られ、授業場面での活動量が増えた。 ・連絡帳や電話による家庭との連携を密にすることで、授業だけでなく学校生活場面で個々の課題に取り組む生徒の姿が、多く見られるようになった。また、学年、学級、スタディ等における集団を意識した活動が増え、基本的生活習慣の育成が図られた。 ・「ありがとうチャンピオン」や「ひがしまルシェ」及び「作業学習での評価」を実施することで自己有用感及び自己肯定感が高まり、自信をもって明るく、楽しく、笑顔で学校生活を送る姿が多く見られた。 ・将来を見通した中学部における3年間の計画的な教育支援を行っていくことや個々のアセスメントを常に行い、細かな目標設定の上、より充実した学習活動を実施していくことが課題である。

高 等 部	・自立と社会参加のための力の育成	・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあった指導を行う。	・昨年から新設した教育課程での学習により、B類型で学習をしている生徒にとっては視覚教材等を使用するなど、生徒にとってより理解しやすい学習環境が整備されてきており、落ち着いて学校生活を送ることができる生徒が増えた。A類型で学習をする生徒については障害受容や自己理解の観点からも自分ができることを増やす努力をしながらも、できることとできないことを認識し、できないことについては自ら支援を求められる力を身に付けるようにする必要がある。また、引き続き学校生活や行事等において自分で考える機会を多く設定することで、自己判断、自己決定、自己選択ができる力を身に付けることができるようにしたい。	・新しく起こした教育課程B 2を対象とした生徒の学習については、1 時間目に帯で自立活動の内容や目標を意識した学習をすることにより、年度当初は情緒不安定になったときになかなか落ち着かなかった生徒も、毎日見通しをもつことができ、いいスタートが切れるようになったことで安定した情緒で学校生活を送ることができた。対象の生徒にとっては必要な時間であることが改めて確認できた。今後の課題としては、新しい教育課程での実践を通して成果等を検証し、来年度以降の生徒の実態を考慮した上で、適切な教育課程での学習を前提とした学習内容の検討・改善・工夫をしていく必要がある。
		・学校生活の様々な行事を通して、基本的生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける	・日常の学校生活や行事等を通して挨拶・返事・報告をはじめとする働く上で必要となる態度が定着しつつあるが、特定の相手や特定の場所のみでしかできない場合があるため、今後はどんな環境でも身に付けた力を発揮できるように指導する必要がある。	・卒業後の生活を想定して、様々な学習場面で「支援しすぎない」学習環境を設定するようにした。働く上で必要となる態度等の必要性や大切さを授業場面等で日々伝えることで場面や相手にかかわらず挨拶ができる生徒が増えてくるなど、自らの意思で場面や相手に応じた判断、選択、決定できる力は身に付きつつある。今後は挨拶等だけでなく、正しいコミュニケーションの取り方など、よりよい対人関係が構築できる力を身に付けたい。生徒一人一人の実態に応じた必要な支援を見極めるとともに、高等部の生徒として育成したい「目指す生徒像」を整理し、一般社会の中でのスタンダードを意識した指導を行うことで卒業の生活にスムーズに移行できる力を身に付けていきたい。
			評価結果と今後の課題	
学校関係者評価を実施する主な項目		・安全で気持ちの良い学習環境の整備を進める。 ・発達課題をしっかりと捉え、12 年間を見据えた支援を進める。	・ 3 年計画でエアコン整備の予算がつき、今年度第 1 期工事が始まり小学部の教室にエアコンが設置された。平成 31 年度夏季より使用予定である。また第 2 期工事で中学部、高等部の教室にもエアコンが入り、同じく平成 31 年度夏季より使用予定である。これにより、夏季の熱中症対策の環境整備が整いつつある。来年度は使用時の注意事項などを周知し、混乱なく使用できるようにしていきたい。 ・ 台風により屋根のスレートが飛び、食堂や校舎の雨漏りの被害が一層広まった。今年度食堂の厨房の屋根の防水工事が入り、衛生環境的には良くなった。 ・ 食堂・校舎の防水改修の設計が始まり、来年度は防水改修工事が行われる予定になっている。 ・ 全校研究を通して、各部で発達課題をしっかりと捉え、児童生徒の実態把握、目標設定等について共通理解を図ったり、視覚支援の活用等による効果的な支援を進めたりすることができた。 ・ 来年度より、小学部と中学部で自立活動の「時間における指導」を試行するために教育課程の整備を進めてきた。来年度の全校研究では自立活動のアセスメントに焦点を当て、自立活動の指導の充実に向けて研究を行う予定である。このアセスメントを小学部から高等部まで共通のツールとすることで、12 年間を見据えた支援をより進めていけるものと考えている。	